（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（南信州地域）

令和７年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域課題解決を通じたつながり人口創出事業
事業主体 （連絡先）	飯田市
事業区分	(8)その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,052,000　円（うち支援金：　1,588,000　円）

事　業　内　容

地域課題に触れる年間プログラムの企画・運営・告知及び
共創人口創出のプラットフォーム「conomichi」の運用
　地域で熱意を持って課題解決に取り組む起業家やマルチワーカーとの出会いや、里山・森林ビジネスや地域ビジネスに関心を寄せる参加者が、当市に関わるための入口づくりとして、現地プログラムを開催し、地域に貢献し、魅力的な生き方をする人と、課題解決や里山資源や副業（複業）に関心が高い参加者との接点を構築した。



【伊那谷ﾘｼﾞｪﾈﾗﾃｨﾌﾞ会議　集合写

事　業　効　果

【目標・ねらい】

①年間プログラム（４回）に２回以上参加した者の数：10人以上

②伊那谷リジェネラティブ会議への南信州地域以外の参画：１件以上

①年間プログラム（４回）に２回以上参加した者の数
→２人（なお、その他の飯田市主催（共催）のイベントへ参加した者は３人となり、目標としていた10人に届かなかった。年間計画を示し、連続講座としての見せ方が必要と分析しており、年間を通じた講座を経て得られる経験やネットワークを言語化することが重要である。

②伊那谷リジェネラティブ会議への南信州地域以外の参画
→上伊那地域から登壇者として５人、参加者では６人が参加となり、飯田市や下伊那地域外から参画する人を受け入れできた。

※自己評価【　B　】

【理由】
南信州地域外からの参画を呼び込み、伊那谷地域全体で里山資源や地域資源の価値化を再考する機会がつくれた。一方で、年間を通じてファンを目標値以上に獲得できなかった。

今後の取り組み

・連続講座のように年間を通じた開催計画として設計する、または、１回辺りの滞在日数を増やすため、２泊３日程度のプログラムとすることで、当地域の資源やそれらに関わる地域プレイヤーとの出会いの密度を濃くする必要がある。
・conomichiは最終的なプラットフォームであり、それまでの導線としてSNS広告やSMOUT等を活用し、ターゲットとする層に情報を届けることは継続していきたい。
・今後、二地域居住という観点から、これまで以上に地域に関わり能動的に活動する人、地域資源の価値を再読し、住民の皆さんと一緒になってリブランディングに取り組む「共創人口」の創出に取り組んでいく。地域課題とローカルビジネス（スモールビジネス）は相性が良いため、マルチワークを学べる機会を創出できると、仕事・副業という入口で地域に関わるきっかけがつくれるだろう。